

事業所名

児童発達支援センター ユニコーン

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

3 月

15 日

法人（事業所）理念		健やかに命 ひたむきに夢 君の爪痕 山肌に残せ							
支援方針		①INREAL（インリアル）アプローチを基本理念とし、Snoezelen（スノーズレン）、自閉スペクトラム症の児童についてはTEACCH（ティーチ）プログラムを取り入れた療育を実施し、自ら活動し表現する力を引き出します。②自由な発想を支える環境設定を基盤に、スタッフがそれを促す支援を行います。園庭では、出来るだけ自然に近い環境の下で、健やかな身体を育てる援助をします。							
営業時間		8 時	30 分	から	17 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	食事・睡眠・排せつ・清潔・着脱に関する基本的な生活習慣を確立し、同時に自分で健康や安全を守り、自分の体を大切にするセルフケアを身に付けるための支援をする。 （１）危険を察知し身を守る。（２）自他ともに気持ちよく食事をする。（３）日本の文化に合わせて排せつをする。（４）健康を守るために睡眠をとる。（５）身体を清潔にする。 （６）身の周りを清掃する、片付ける。（７）気持ちの良い身支度をする。等							
	運動・感覚	脳が五感などの様々な感覚情報を整理して、適切に反応する能力を養う。自然の園庭やブレイルームに設置している遊具を利用して自ら運動し調整する力を養う支援をする。本人がやってみたいと思うことを行いその中で成功体験、感覚刺激を重ねる。見る・聞く・触る・動かすを意識しながら、楽しく感覚遊びや運動する力を育む。スノーズレン施設を有効に利用し、自ら探索する意欲を育てる。							
	認知・行動	楽しく遊びながら、様々な体験を積み重ねることで、認知力を高める。言葉やイメージを使って物事を、理解し表現する能力を発達させる。物の見方や考え方に働きかけ気持ちや行動をコントロールする力を育てる。							
	言語コミュニケーション	インリアル アプローチの基本である、子どもから発信する力を育てることを狙いとして7つの言語心理学的技法（１）ミラーリング（２）モニタリング（３）パラレル・トーク（４）セルフ・トーク（５）リフレクティング（６）エキスパンション（７）モデリング等を中心にコミュニケーション能力を支える。							
	人間関係社会性	恐怖や緊張によって他律的に行動するのではなく、人への信頼に基づいて自律的に行動する社会性を身に付けるような支援をする。自律的な生活は0歳から始まる。 （１）自立・自己概念に関する発達（２）人への信頼感・共感能力に関する発達（３）状況、言葉、非言語コミュニケーションの理解と判断（４）表情、体でのコミュニケーションスキル （５）言葉でのコミュニケーションスキル。等							
家族支援		本人のみならず兄弟支援保護者支援を実施しながら家族の関係を構築していく助言をする。ペアレントトレーニング等を通じて親と子供のより良い環境を築く支援をする。			移行支援	保育所等訪問や交流保育を通じてインクルーシブ教育を目指す。			
地域支援・地域連携		地域の障がい児通所支援事業所に対するスーパーバイズ機能を果たす。地域のインクルージョン推進の中核機能を果たし地域の発達支援に関する入口としての相談機能を果たす。			職員の質の向上	外部からのスーパーバイザーを招き日々の療育について指導を仰ぐ。外部講師を招き専門的見解による指導を仰ぐ。職員会議やカンファレンスを通じて内部研修を行う。			
主な行事等		誕生会やクリスマス会遠足等を通じて、社会経験を積む。							